

交通安全家庭新聞 回覧

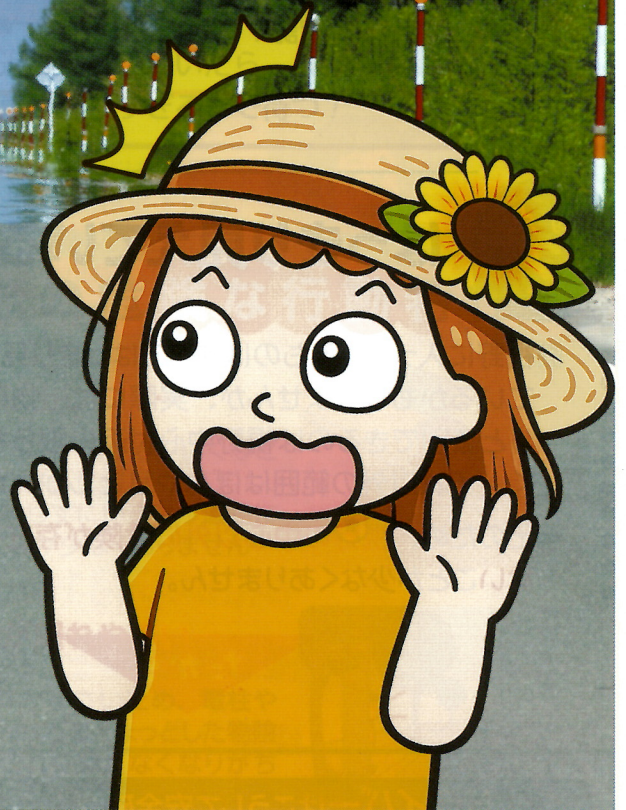


あれ?????

道路が消えた!?

★道路が消えている、または濡れているように見えるこの光景—これは、夏の暑い日に生じやすい「逃げ水」という目の錯覚です。実際に道路が消えたり、濡れたりしているわけではありません。

★このように、視覚から得た情報には不確かなところもあるため、見た目だけで安易に判断するのは非常に危険です。道路を通行するときは、視覚の弱点をよく理解したうえで、交通状況をしっかり観察しながら、慎重に行動することが大切です。



須賀川地区交通安全協会・須賀川警察署
須賀川地区安全運転管理者協会
安全運転管理須賀川事業主会
須賀川市・鏡石町・天栄村交通対策協議会

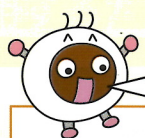
目の弱点を知って、しっか

弱点 1

一瞬見るだけでは見落としがち…

■目さえ向ければ視野にあるものすべてを一瞬で認識できる—と思うかもしれませんが、実際には、視野にあるもののうち何を見るのか具体的に定めていなければ、**チラッと一瞬見ただけでは認識できない**ことが少なくありません。

だから



ただ目を向けるだけでは見落としちゃうよ…
この図を使って体験してみよう！



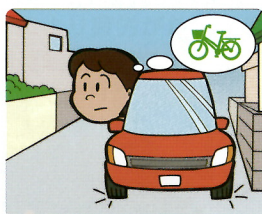
①左の図を2～3秒じっくり見ましょう。

②図を隠し、そこにどんな文字や記号があったのか思い出してみましょう。視野には入っていたはずなのに、すべての文字・記号を正確に思い出すのはきっと難しいはず…

③しかし、「○は何個あるか」など、見るべきものをあらかじめ定めておくと、1秒程度見るだけで正確に判別できるようになります。

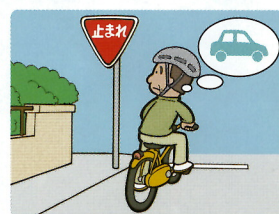
ドライバーはこうして安全確認！

- 交差道路からの車両や横断しそうな歩行者など、その場面に現れそうな危険を具体的に定めて、その有無や動向を確認！



自転車利用者はこうして安全確認！

- 特に信号がない交差点を通行するときは、必ず一時停止して、交差道路からくる車の有無をしっかり確認！



弱点 2

はっきり見えている範囲は狭い…

■視野に入っているものはすべてはっきり見えている—と思っているかもしれませんが、実際には、物の形や色をはっきりと識別できるのは視野中心付近の限られた範囲でしかなく、それ以外の範囲はぼんやりとしか見えていません。

■そのため、**視野の中心以外に危険が存在していても気づかない**ことが少なくありません。

だから

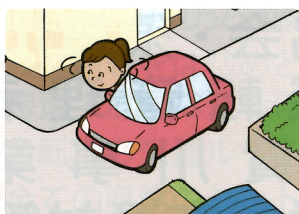
※イメージ写真です



正面ばかり見ていると
見落としちゃうかも！

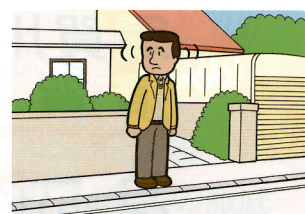
ドライバーはこうして安全確認！

- 目線だけでなく、顔全体を右左に向け、他車(者)の有無や動向を視野の中心でしっかり確認！



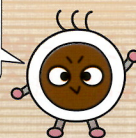
歩行者・自転車利用者はこうして安全確認！

- 道路を横断する前に必ずストップし、顔全体を右左に向け、車がきていないか視野の中心で確認！



安全確認をしよう!

みんなで
実践!



弱点 3

暗い場所が苦手…

- 特に通り慣れた場所では、夜間でも昼間と変わらず見えているつもりで道路を通行しがちですが、人間の目には、暗いところでは昼間よりも視力が落ちる、色をはっきり識別できなくなる—といった弱点があります。
- そのため、**暗やみに潜んでいる危険に気づかず、回避が遅れてしまう**ことが少なくありません。

だから



暗やみにいる歩行者は
こんなに見えづらいんだね!

ドライバーはこうして安全確認!

- 薄暗くなってきたら
早めにライトを点灯し、
光が行き届かない
右側前方の暗やみにもし
っかり目配りして、
歩行者などの有無を確認!



歩行者・自転車利用者はこうして安全確認!

- 昼間だけでなく夜間も、
道路を横断する前に必ず
ストップし、右左から
車がきていないか確認!
- 車が近づいてきていたら、
その車が通りすぎるまで待つ!



子どもたちを 交通事故から 守りましょう!

- 特に夏休みは、子どもが屋外で過ごす時間が長くなります。
- ドライバーは、子どもの危険な行動特性等を理解したうえで、慎重に運転しましょう!
- 保護者は、「とび出し」や「物陰からの横断」がなぜ危険なのかを、子どもにしっかり理解させましょう!

子どもの危険な行動特性等

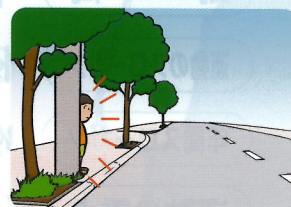
①道路にとび出しがち…

- 道路にボールが転がっていくなどすると、そちらに意識が集中し、安全確認をせずにいきなり道路にとび出すことが少なくありません…



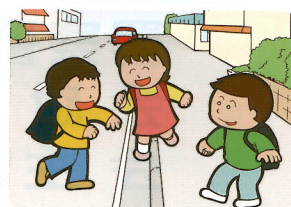
②物陰に姿が隠れやすい…

- 子どもは体が小さいため、電柱や駐停車車両などのちょっとした物陰にも姿が隠れて見えなくなりがちです…



③友だちや家族と一緒にだと警戒心が弱くなる…

- 同伴者がいる子どもは「とび出し」などの危険な行動をしがちです…



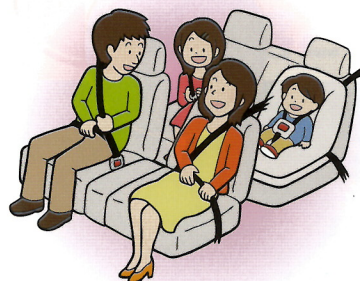
レジャーや帰省で
遠出の機会が増えますが…

安全運転で、楽しい夏にしよう!

特に郊外では
要注意だよ!



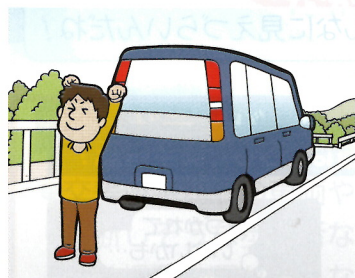
1 すべての座席でシートベルトを着用する!



★乗車中にシートベルトを着用していない人が事故で死亡する確率は、着用者の15倍ほどになります。

★また、身長150cm未満の子どもは、事故や急ブレーキの際に腹部圧迫などの危険があるため、チャイルドシートを使用しましょう。

2 1~2時間おきに休憩し、眠いときは仮眠をとる!



★レジャーや帰省時の運転は、夏の暑さや慣れない場所での運転、渋滞などにより疲労がたまりやすく、長時間運転を続けると居眠り・ぼんやり運転に陥りがちです。

3 ドライバーは出先でお酒を飲まない!



★飲酒が体に及ぼす影響は思いのほか長引くため、ビール(5%)を500ml飲んだ場合、最低でも5時間は運転してはならないとされています。

(厚生労働科学研究による)

「目の錯覚」が思わぬ事故を招くかも…

上り坂になっている…?



■下り坂の途中で勾配が緩やかになると、まだ下り坂が続いているのに上り坂に見えることがあり、不用意にアクセルを踏み込んで車のコントロールを失う危険があります。

道路が狭くなっている…?



■右カーブでは、自車線よりも対向車線のほうが広く見えやすいため、無意識のうちに対向車線側に寄り、カーブの先から現れた対向車と衝突するなどの危険があります。



令和8年夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動

期 間

令和8年7月16日(木)から7月25日(土)までの10日間

運動のスローガン

優しさと ゆとりを持って 安全に

年間スローガン

ゆずりあい 人も車も いい笑顔

運動の重点

- (1) こどもと高齢者の交通事故防止
- (2) 道路横断中の交通事故防止
- (3) 飲酒運転をはじめとした悪質・危険な運転の根絶
- (4) 自転車の交通ルール遵守とヘルメット着用・保険等加入の促進
- (5) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

